

志木二中だより



2月号 平成30年2月1日(木)
志木市館1-3-1 TEL 048-473-2379

「あいさつ」のあふれる学校に

校長 本 莊 真

3学期の始業式で、「私の今年の目標は、志木二中をもっともっとあいさつのあふれる学校にすることです。」と全校生徒の前で話しました。基本的に志木二中の生徒はよくあいさつしてくれます。とくに休み時間などに校舎内を歩いている時、ほぼ全生徒が「こんにちは」と元気に声をかけてくれます。私一人でもそうですし、お客様をお連れして歩いている時なども同様なので、いつも「よくあいさつをする生徒さんですね。」と褒められ鼻が高くなります。しかし、朝の校門ではというと、けっこう個人差があるような気がします。遠くからでも先をとって大きな声で「おはようございます」を言える生徒や、私が逆を向いていて気がつかなくてもきちんと声がけしてくれる生徒などが大勢いる反面、目が合わずボソボソと口も動いたのか動かなかったのかわかりにくい生徒もいるのです。今の時期、寒いからポケットに手を入れたまま通り過ぎていく生徒もいます。日中と朝、この違いは何でしょう。起きて時間が経っておらず、まだ脳が働かず反応できないのでしょうか。そんなことはないと思います。また、校舎内では◎、校門だと○or△、では学校の外ではどうなのかと少々心配にもなります。



さて、あらためて「なぜあいさつは必要なのか」と問われたら皆さんは何と答えますか。コミュニケーションの第一歩、礼儀作法、最低限の常識などいろいろな答えがあるでしょう。私は、「信頼」されるということにつながるのだと思っています。今、きちんとあいさつができる人は、社会人になってもあいさつができるでしょう。社会に出てあいさつひとつできないと信頼どころか相手にされません。また、「こちらから声かけて無視されたらどうしよう」「昨日ちょっとけんかして気まずいな」などの理由で、あいさつするのに「勇気」が要る場合もあるでしょう。答える側も、気分が乗らなくてもけんかしていても返す「勇気」がもてるか問われることもあります。「勇気」と「信頼」まさに志木二中の学校教育目標です。私は、志木二中があいさつあふれる学校になれば、自ずと学校教育目標に則った人材を育成することになるのだと考えています。

朝、校門に立っていると、通勤通学途中の一般の方々もあいさつをしてくださいます。そして、志木二小の集団登校の列からの「おはようございます」が、学期を追うごとに増えているのも感じ、大変うれしいです。つい、「おはよう」と同時に「ありがとう」と返してしまうこともあります。「お互いが気持ちよくなれる」やはりあいさつの良さはこれだと思っています。